

# なかとんべつ 町議会だより

Volume  
**202**

平成30年7月25日発行



第2回定例会議決内容 .....	3
私たちの一般質問 .....	4
主な質疑及び答弁、議長会表彰 .....	7
第3回臨時会結果、議員だより .....	8
報告事項 .....	9
管内議員研修会報告・議会の動き・編集後記 .....	10



## 第2回 定例会

**平成30年第2回定例会が、6月14日から2日間の会期で開催され、冒頭の行政報告で小林町長から1点報告がありました。**

1. 松音知地区の漏水事故について

平成30年5月23日に松音知地区及び敏音知地区の一部で、漏水事故が発生し断水しました。

漏水場所は松音知ポンプ室付近で、建設課及び水道指定業者と修理対応するとともに、南宗谷消防組合中頓別支署及び浜頓別支署の協力を得て、タンク車による敏音知配水池へ応援給水を実施し、翌24日の午前3時45分頃に復旧しました。

漏水の原因は、経年劣化による配水管の亀裂と判断され、断水地域、特に農家の方々には多大なるご迷惑をかけたことに対しお詫びするとともに、報告がありました。

**教育長の教育行政報告では2点の報告がありました。**

1. 未来への挑戦「ハワイ英語語学研修」事業について

日程は8月3日～10日、オアフ島のホノルルで実施し、参加生徒は中学2年生6名、中学3年生11名で、生徒と引率者22名が参加する事業となります。保護者対象の説明会は既に行っていますが、今後はホームステイ研修の具体的な内容等について説明会を開催する予定となっています。

2. 町塾の実施について

小学校高学年を対象に、町塾（学習塾）の準備を進めており、教科は算数、国語及び英語で受講は無料、場所は町民センターで7月上旬から週2回程度実施する予定となっています。

**一般質問では、通告順に4議員が質問を行いました。**

報告では、平成29年度一般会計予算を平成30年度に繰り越して使う「繰越明許費繰越計算書」のほか、町が資本金を出資している「中頓別観光開発株式会社」、「有限会社中頓別振興公社」の平成29年度経営状況が報告されました。

町長から提案された、任期満了に伴い町長が任命する教育委員会教育長及び監査委員を選任する同意2件、条例制定及び改正、補正予算を含む6議案を原案可決し、選挙管理委員及び補充員の選挙を実施し閉会しました。

# 第2回定例会で 決まりました



## 議決内容

○同意第1号 教育委員会教育長の任命  
意

教育長 田邊 彰宏 氏(再任)

任期満了に伴い、田邊教育長の任命に  
全会一致で同意しました。

(任期4年 平成30年7月1日)

平成34年6月30日)

○同意第2号 監査委員の選任同意

監査委員 代蔵 恵三 氏(再任)

任期満了に伴い、代蔵氏の選任に全会  
一致で同意しました。

(任期4年 平成30年7月9日)

平成34年7月8日)

○議案第46号 奨学金等償還支援基金条例

奨学金等償還支援条例における助成金  
及び貸付金に係る基金を設置するため  
制定。

○議案第47号 職員定数条例(一部改正)

勤務実態に合わせた職員配置を行つた  
めの職員定数管理の改正。

○議案第48号 過疎地域自立促進市町村計  
画の変更

寿野外レクリエーション施設維持管理  
運営事業について、財源の確保を図るた  
めの計画変更。

○議案第49号 辺地に係る公共的施設の総  
合整備計画の策定

○議案第50号 一般会計補正予算

歳入歳出に4千559万円を追加し、  
総額は42億3千701万円に。

歳出の主なものは、奨学金等償還支援  
事業1千55万円、町有財産維持管理事業  
105万円、期限が延長されたことに加  
え、移住定住促進事業の充実と就学支援  
事業の追加によるいきいきふるさと推進  
事業550万円(総務費)

酪農研修生用住宅屋根修繕工事191  
万円(農林水産業費)

ピネスシリ温泉屋根修繕工事112万  
円(商工費)

中学校校舎修繕工事324万円、寿公  
園管理棟屋根修繕工事616万円(教育  
費)

奨学金等償還支援基金積立金1千50  
0万円(諸支出金)を追加するもの。

○議案第51号 国民健康保険事業特別会計  
補正予算

歳入歳出に126万円を追加。総額は  
2億8千171万円に。

○発議第1号 地方財政の充実・強化を求  
める意見書

※○は原案可決・採択

○選挙第1号 選挙管理委員の選挙

任期満了に伴う選挙管理委員4名の選挙  
の結果、次の4氏が当選されました。

藤田朋美さん(再)

周防雅行さん(再)

丸山博光さん(再)

鳥田 博さん(新)

(任期4年 平成30年6月29日)

平成34年6月28日)

○選挙第2号 選挙管理委員補充員の選挙

任期満了に伴う選挙管理委員補充員の選  
挙の結果、次の4氏が当選されました。

順位1 大野賛知子さん(新)

順位2 吉田仁美さん(新)

順位3 大山敏昭さん(新)

順位4 相馬祥子さん(再)

(任期4年 平成30年6月29日)

平成34年6月28日)

ここが聞きたい、知りたい

# 私たちの一般質問

細谷久雄 議員



質問

●高齢者ドライバーの安全対策について

高齢化社会に伴い、高齢者ドライバーによる重大事故が増え続けている。そこで、本町における高齢者ドライバーに対する事故防止対策は実施されているのか。

答 弁 ○小林町長

ご自身の運転技術に衰えがないか自己確認や家族等の意見を聞き、衰えが見られたら免許証の自主返納を行うことが重要であります。しかし、当町においては自動車の運転が出来なければ不便である地区に居住されている方もおり、免許証を自主返納しても今までと変わらない生活水準を保つ環境を整える必要があります。

中頓別町立自動車学校では高齢者教習を実施しており、任意でも受付を行っております。

ので、ご自身の運転技術を確認できる体制は整っております。また、事故防止対策として現時点では医療、福祉の連携で事故防止対策を進めてきているのが現状です。自主返納後の対策としては従前の年間48枚配付のタクシードライバーや病院送迎車の利用、また、ライドシェアの活用が有効と考えております。これらの福祉サービスや地域間交通の充実で補っていきたいと考えます。

質問

●誰もが使いやすい町民サービスの向上に向けて

近年、マイナンバー制度の個人番号カードを利用して、住民票などの各種証明をコンビニエンスストアで交付するサービスが始まりました。コンビニは365日、夜間や早朝などにも対応していますし、平日の役場開庁時間以外の時間帯や休日でも簡単に証明書を取ることができます。導入費用、維持費もかかると思うが、必ずや町民サービスの向上につながると思うが、町長の考えを伺う。

答 弁 ○小林町長

各種証明書のコンビニエンスストア交付は総務省から促進がされているところであり、また、今後の住民サービスの要望や時代の流れにに応じて、その準備に向けた対応が必要になってくると考えられます。

また、各種税証明に関しては住民税システム及び固定資産税システムの導入が必要であり、管内他町村では既にシステム導入済みですが、当町は未導入のため、まずはシステム

において管内町村と足並みを揃えておく必要が生じます。

これらの前段階の準備を行い、出来るだけ経費を節減するうえでも広域的なシステムの構築にむけた検討をしていきたいと考えます。

星川三喜男 議員



質問

●町職員定数条例について

今議会には、町長部局を70名から80名に、教育委員会を15名から17名に増員する職員定数条例の改正案が提出されている。12名もの増員を可とすることは、これまでの行革努力を台無しにし、人口減少で地方交付税が減少していく町では、財政破綻を招くものである。私は、前にも述べさせてもらいましたが、

一説には大卒地方公務員の生涯賃金は、2億〜2億5千万円と言われています。12名の定

員増なら約30億円の負担増となる。退職後の年金も結局は税金が原資であり、将来の町民負担は計り知れない。

提案自体が職員のためであり、町民の方を向いていない。職員数を減らすなら理解できるが、現定員でやれないのは行政運営能力が欠如しているといふしかない。

町民のことをいの一に考えるなら提案を撤回すべきと考えますが、町長の所見を伺う。

答 弁 ○小林町長

町職員定数条例の一部改正については平成18年10月に町長部局85名から70名に、教育委員会部局では8名から15名に改正されており、町長部局から教育委員会部局へことも館職員の変更に早期退職者が増えたことによる町長部局の実質減員は8名としたところです。平成18年当時は財政改革の真つただ中であり、退職者不補充を行うことで新規職員を採用せず、最小限の職員数で業務を進めてきた経緯があります。ここ数年は退職者数に応じて新規職員を採用してきておりますが、若い職員が採用されたことにより育児休業取得者も増えてきており、現在は3名の職員が1年間の育児休業を取得しております。町民要望におけるサービスの充実については、医療分野において訪問着

護やリハビリテーションの実現、福祉分野では認知症対策等における地域包括支援センターやこどもの健全な育成を推進する子育て世代包括支援センターの設置など、新たな事業への人員の配置も必要となつてきています。また、世代交代を必要とされる保健師や保育士、土木系技術者等の配置・育成などで一定期間は職員の重複が必要とされます。それらを踏まえながら今後予想される退職年齢の段階的な引き上げや退職後等の再任用職員の活用を通して、新規採用者の育成、人事異動等による住民サービスの低下抑制、職員年齢構成の歪みの是正に対応すべく、町長部局で10名及び教育委員会部局で2名の計12名の定数増を図るものです。このたびの定数増はむやみに職員を増やすのではなく、一時的に重複を余儀なくされる期間が生じることや、新規事業及び再任用職員の配置における定員の増に対応したものであります。

### 東海林 繁幸 議員



質 問

●特別職等報酬審議会を設置したことについて

(1) 設置し諮問した意義を伺います。

(2) 報酬額の適正な基準をどう考えていますか。

答 弁 ○小林町長

(1) 特別職報酬等審議会につきましては、平成21年1月に開催されて以来、設置はしてきておりません。この間、ひたすら財政改革に取り組み、一定程度の財政健全化が図られたものと考えております。

このたび、平成30年5月21日に審議会を設置し、諮問を行ってまいりました。

た。特別職、町議会議員、農業委員、監査委員、各種委員会委員など、全ての役職や役割に対する認識を新たにするとともに、その重要な任務に対する評価を頂く絶好の機会であると考えております。今回の諮問にあたっては、報酬額改正の必要性も含めてご検証頂くこととしております。

(2) 第1回の特別職報酬等審議会の審議に際し、町からは一切の報酬の想定額は提示してございません。資料の提示としましては、旭川財務事務所でもまとめられた中頓別町の財務状況と将来予測、及び政策経営室で統計をとっております10年間程度の財務指数の提示を行い概要のご説明を行ってまいりました。また、管内及び近隣町村、類似団体との報酬比較や一般職との給与比較の資料も提示しております。

町としましては、報酬額の適正な基準についても一切を審議会に委ねることとしております。審議会では、改正の必要がある場合には、根拠をもって報酬額を提示していきたいとのご意見であり、今後の審議会で報酬額の適正な基準が示されるものと考えております。それが今後の報酬額の適正基準になるものと考えています。

質問

●社会教育主事を公募していることについて

(1) どのような人の配置を考えていますか。

(2) 応募状況をお知らせください。

答 弁 ○小林町長

(1) 旬報5月25日発行号で広報を行ったとおりであります。年齢は45歳以下で社会教育の業務に5年以上従事した社会教育主事資格を有する経歴者であり、高い資質能力を有する者の配置を考えております。

(2) 旬報、町のホームページ、ホームページにより公募をかけておりますが、現在、応募者はございません。応募がない場合には、資格要件や経歴年数を下げることが検討しながら公募を継続していきたいと考えております。

質疑・質問は要約されています

スペースの都合上、審議した議案や質疑・質問と答弁の内容を要約して載せています。

会議の内容は、会議録に詳細に記録されており、ご覧になりたい方は議会事務局までお問い合わせください。

宮崎 泰宗 議員



質問

●副町長の役割について

昨年の設置時に間違いのチェック作業も行ってもらいたいとした副町長は、新年度人事で総務課長との兼務を解かれたが、副町長が設置されてからも大きなミスは起こり続けているにもかかわらず、仕事を減らし、単に割高な役職をつくっている余裕があるなら、兼務はただの印象操作だったのではないかと。楽をしていただくわけにはいかないので、例えば監査委員からも指摘のあった自動車学校事務職の膨大な時間外勤務に対する負担軽減等、様々な特命に取り組んでいただくべきではないか。

答 弁 ○小林町長

今年4月から副町長は専任となり、その基本的な役割である長を補佐して政策及び企画をつかさどり、補助機関である職員の担任する事務を監督するという立場で、ようやくその力を存分に発揮してもらえ体制が整ったと考えている。行政に対する信頼回復に向けて、組織強化、人材育成にしっかりと取り組むとともに、さまざまな課題の解決を積極的に進めていきたい。

答 弁 ○遠藤副町長

自動車学校については、3月に指摘を受け、現在は業務の改善に向けた協議等を行っているところであるが、4月以降の超勤については大幅に減少させることができていると、今後も努力していきたい。

質問

●町の財産倒壊の責任は

この冬において、ライダーハウス（旧カーリング場）、鍾乳洞の木橋は、豪雪でつぶれたかのような報道があったが、いずれも町民の財産であり、倒壊等の恐れを予見し十分に対応することも行政の仕事ではないか。

答 弁 ○小林町長

この冬における豪雪で貴重な町の財産を失ったことは、深く反省しなければならぬことと重く受け止めているが、今年のような大雪では、対応できる限界を超えていたと理解している。私としては、以前も答弁した通り全く人災の要素がなかったとは考えていないが、これまでの経験や予想能力を超えた自然災害であったと判断しており、今後に向けては、再びこのようなことがないように、防災担当を配置した総務課を中心に全庁的に豪雪等に備えた対策をしっかりと構築していきたいと考えている。

答 弁 ○小林総務課長

鍾乳洞の木橋に関しては、1.5mの積雪に耐えられるという設計だったが、今年3月に降った重たい雪の影響等で、荷重を超えてしまったと考えている。これまでは特に問題なく安心してしまっていた部分もあると思う。

質問

●質の低下を人手で補うとは

今定例会では、職員定数を12名も増やす条例改正案が提案されているが、これは職員の資質等の向上を図らず人手だけを増やそうとするものではないか。ここ数年、本町行政の評判は町民の間でも非常に悪く、全職員を一色単にするつもりはないが、年齢や経験に見合ったレベルに達しない職員が増え

ているのか、専門的なことなども外に丸投げしているのだから、これ以上の増員は必要なく、町職員の雇い主は町長ではなく町民であり、職員とはどうあるべきか意識改革等に取り組みたいかがか。

**答 弁** ○小林町長

職員定数12名の増員に関しては、新規職員が採用されたことによる一時的な住民サービスの低下を再任用職員の配置により補い、専門職、技術職等を養成するうえでも、若手とベテランを一定期間重複させる必要があることから提案するもので、むやみに職員数を増やすものではない。

町職員の意識改革については、計画的に研修を進めてきているところであり、今年度は窓口業務の改善について、若い職員を中心に積極的に取り組んできているところでもある。

**答 弁** ○小林総務課長

現状の職員数は、町長部局が定数70に対し66、教育委員会では定数15に対し14、7月末で1名退職予定であるが社会人枠で3名の採用が内定しているほか、医師、薬剤師、社会教育主事など、現在も両部局で職員募集を行っており、現行の定員のままでは来年度以降の職員採用や再任用希望等に支障をきたす可能性が高い。

**議案審議の主な質疑及び答弁**

**議案第46号 奨学金等償還支援基金条例の制定**

Q. 基金の積み立てはどの程度予定しているか。  
(星川議員)

A. 今年度は1千500万円、次年度以降は実績を踏まえ検討する。  
(小林総務課長)

Q. 特別交付税措置の可能性は。  
(東海林議員)

A. 現在、北海道を通じて確認中である。  
(小林総務課長)

**議案第50号 一般会計補正予算**

Q. 仮設のライダーハウスの選定理由と設置期間は。次年度以降の計画は。  
(細谷議員)

A. 仮設のライダーハウスの規模は、過去の利用実績から選定。開設期間は7月から9月まで。次年度以降は利用者の意向を確認し検討する。  
(平中産業課長)

**議案第47号 職員定数条例の改正(一部改正)**

Q. 再任用職員の改正と思われるが、定員管理に影響しないか。短時間再任用を検討しないか。  
(星川議員)

A. 再任用職員の確保、技術者等の養成及び育児休業者の補充により重複するため増員する。  
(小林総務課長)

A. 再任用に関し、総務省より公的年金の移行期間の処遇に対し行政として職種確保の必要性を求められることを理解願いたい。  
(遠藤副町長)

**【討論(反対)】**

○宮崎議員

行政は最少の経費で最大の効果を目指すべき、現状を維持することが最良と考え反対する。

**【賛成】**

○西浦議員

現状の行政職員の年齢構成に偏りがあり、中間層の人員が不足している。一時的には重複するが、組織体系を維持するためには増員に賛成する。

**表決結果、賛成多数で可決**

【賛成者】東海林議員、細谷議員、西浦議員、長谷川議員

**北海道町村議会議長会表彰 村山議長、東海林議員 2議員に**

6月12日札幌市で開催された第69回北海道町村議会議長会定期総会において、町村議会議長として7年以上在職の村山議長、議員として15年以上在職の東海林議員の2名が、地方自治の振興発展に寄与した功績が称えられ、表彰されました。



## 第3回臨時会結果 (5月2日)

平成30年第3回臨時会が5月2日招集され、行政報告の他承認2件と3議案を原案可決しました。

### (行政報告)

新規就農者の営農開始について、酪農研修を行っていた精松智通（あべまつ）ともゆき）さんが、本年4月より岩手地区にて酪農経営を開始。本町の新規就農者誘致特別措置条例に基づき新規参入者は、4例目となった。

### ○承認第2号 専決処分の承認

(国民健康保険税条例の一部改正 3月31日専決)

地方税法施行令の改正による、国民健康保険税の5割軽減及び2割軽減となる所得の範囲の改正。

### ○承認第3号 専決処分の承認

(条例の一部改正 3月31日専決)

地方税法等の改正による、住民税関係の特例規定の整備及び固定資産税関係の特例規定の整備に係る改正。

### ○議案第43号 工事請負契約の締結

中頓別町寿スキー場リフトリニューアル工事に ついて、プロポーザル方式により日本ケール株式会社札幌支店が2億2千788万円で請負契約を締結。

### ○議案第44号 平成30年度一般会計補正予算

歳入歳出の総額にそれぞれ3億498万3千円を追加し、予算の総額は41億9千142万7千円に。

### ○議案第45号 平成30年度自動車学校事業特別会計補正予算

歳入歳出の総額に253万4千円を追加し、予算の総額は3千739万5千円に。

## 議員だより ～私の思い～

このコーナーは、それぞれの議員が町づくりや議会活動などについて思いを綴るものです。

### 『人手を増やす前にまず質』

本定例会では町職員定数を12名も増やすという提案がなされ、4名の賛成によって可決されました。人口や税収などの減少が著しい本町にあっては、いずれ今の職員数でさえ維持できない状況が訪れるのは明らかです。職員が増えるという事は、その給料から年金まで、町民の皆様の負担が増えるということ、人口、税収が減れば、町民一人当たりの負担はさらに増えていきます。ですから本町においては、職員定数を減らす方向にあっては、増やす方向にはなく、行政の質を高め、定数は最低限、現状を維持するべきであり、まもなく任期を終える首長が提案すべきことでもないかと主張し、私は反対しました。

しかし、一番の問題は議会の賛否が長側に見透かされていることかもしれません。今任期で否決という結論が示されたのは一年目のたった一度だけ、前の任期では否決、修正、撤回、諸々ありました。それは長側と議会とのパワーバランスが今よりはマシだったからです。町職員のみならず、特別職も報酬や定数を増やせと言う前に資質の向上が必要であり、特別委員会なども設置せずに本会議だけで議論した形をとり、強行採決に出る議会に異論を呈す議員を増やすも減らすも、町民の皆様のご判断に委ねられています。

(綴人・宮崎泰宗)

## 議会を傍聴しましょう

議会は、町民の暮らしに直結する税や福祉などの身近な問題を議論する大切な場です。議会では、議会だよりで情報の提供に努めていますが、町政の動きを定例会や各種委員会を実際に傍聴し、自らの目と耳で知ることが大切です。次の定例会は、9月に招集されます。日程は、議会だより臨時号などでお知らせします。

### ホームページで議事録などを公開しています

中頓別町のホームページ (<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp>) で議会だより、定例会の議事録などを公開しています。

町ホームページから [中頓別町について](#) ⇒ [中頓別町議会](#)、又は [行政情報](#) ⇒ [議会](#) へ進みご覧ください。

議会日程や傍聴の手続き、請願・陳情などのお問合せは、Tel6-2244 (議会事務局) へ。

# 報 告 事 項



中頓別観光開発株式会社

※ 町が出資する法人等は、毎年度、経営状況を議会に報告しなければなりません。

## 報告第3号 有限会社中頓別振興公社の経営状況報告

寿レクリエーション施設、一般廃棄物処理施設、鍾乳洞ふれあい公園、国保病院管理清掃、有害鳥獣処理施設業務等を営む同社全体の平成29年度決算状況は次のとおりです。

当期純利益が651,013円となりました。

●損益計算結果、貸借対照表	
・収益合計	70,503,578円
・費用合計	69,562,907円
・営業利益	940,671円
・当期純利益	651,013円
・資産合計	21,743,086円
・負債合計	4,624,597円
・純資産合計	17,118,489円



有限会社中頓別振興公社

※ 繰越明許費（くりこしめいきよひ）は、予算に計上されているが、年度内に支出が終わらないと見込まれるものについて、予算に定めることにより、翌年度に繰り越して支出することができるものです。

## 報告第1号 平成29年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告

平成29年度から30年度に次の事業予算が繰り越されました。

(単位：万円)

事業名	繰越金額
起業誘致促進事業	130,000
林業専用道天北線開設事業	11,600
公営住宅維持管理事業	1,601
合計	143,201

※ 町が出資する法人等は、毎年度、経営状況を議会に報告しなければなりません。

## 報告第2号 中頓別観光開発株式会社の経営状況報告

ピンネシリ温泉の平成29年度決算は、前年度に比べ宿泊者で309人減少、入館者で616人減少。工事関係者による宿泊の減少及び冬期食堂利用者や日帰り入浴利用者の減少に加え、会食利用は増加したが、それに伴う残業時間の増加により人件費が21.9%の増となったため、当期純損失が1,587,557円となり赤字決算となりました。

### ●損益計算結果、貸借対照表

・収益合計	47,425,337円
・費用合計	48,933,732円
・営業損失	1,508,395円
・当期純損失	1,587,557円
・資産合計	12,668,004円
・負債合計	5,626,212円
・純資産合計	7,041,792円

### ●利用状況

・宿泊者数	3,392人 (前年度 3,701人)
・入館者数	10,985人 (前年度 11,601人)
・会食利用件数	130件 (前年度 74件)
・利用人数	2,478人 (前年度 1,245人)
・イベント利用人数	155人 (前年度 428人)

## 議会の動き

### 4月

- 12日 宗谷町村議会議長会定期総会（稚内市）  
22日 中頓別町故郷会（東京都）  
27日 中頓別町観光協会通常総会

### 5月

- 10日 中頓別町農業協同組合通常総会  
12日 中頓別町クリーン作戦  
13日 中頓別町自衛隊協力会通常総会  
15日 宗谷管内町村議会議員研修会（豊富町）  
17日 中頓別町商工会通常総会  
20日 中頓別消防団春季消防演習  
21日 南宗谷消防組合議会（枝幸町）  
22日 天北地域生活交通確保対策協議会及び稚内音威子府間「命をつなぐ街道」整備促進期成会総会（浜頓別町）  
26日 中頓別中学校運動会  
28日 中頓別観光開発株式会社定期株主総会  
29日 宗谷本線活性化推進協議会定期総会（名寄市）  
30日 中頓別町育英会総会  
31日 議会運営委員会  
南宗谷衛生施設組合議会（浜頓別町）

### 6月

- 3日 鍾乳洞芝桜まつり  
名寄駐屯地創立65周年記念事業  
4日 議会運営委員会  
10日 中頓別小学校運動会  
12日 北海道町村議会議長会定期総会（札幌市）  
14日～15日 第2回定例会  
22日 中頓別町戦没者慰霊祭  
23日 こども館運動会  
28日 議会広報編集特別委員会

### 7月

- 3日 北海道町村議会議員研修会（札幌市）  
5日 議会広報編集特別委員会

## 宗谷管内町村議会議員研修会報告

### 《宗谷管内町村議会研修会に参加して》

平成30年度宗谷管内町村議会議員研修会が5月15日、豊富町民センターにおいて開催され、8名の議員が参加しました。

研修会では、管内9町村の議会議員や事務局職員、また、大谷正毅宗谷総合振興局副局長、工藤栄光豊富町長にもご来賓としてご出席いただき、合わせて110名の参加を得て、議員としての情報交換など、横の連携を密にしました。

はじめに主催者を代表して、宗谷町村議会議長会会長である中村忠勝会長（浜頓別町議会議長）が演壇に立ち挨拶をし、来賓挨拶として、宗谷総合振興局副局長 大谷正毅様、豊富町長 工藤栄光様の祝辞をいただき、開催地代表として河田誠一議長が歓迎の挨拶を行いました。

研修会の講演では、「サロベツの豊かな自然と地域に根差したNPO活動」と題し、認定NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク事務局長 嶋崎暁啓氏の講演と、「豊富温泉ミライノトウジへ行こう！」と題し、豊富温泉ふれあいセンター健康相談員 齋藤真由美氏とコンシェルジュ・デスクスタッフ 奥村歩氏のお話があり、興味深い貴重な講演をしていただきました。

研修会終了後には町内視察が行われ、豊富町の木材を使用した優しさにあふれた学びの空間豊富小学校と、セイコーマートが天塩郡豊富町上サロベツに建設したヨーグルト工場を視察しました。

視察終了後は、豊富町民センターにおいて交流会が開催され、サロベツ豊富太鼓”鼓塊磨”による力強い演奏の披露、豊富町の特産品が当たる抽選会や他町村議員との情報交換など、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

（報告者：細谷久雄）

## 編集後記

早いもので、議員としての任期も最終年を迎えました。残された期間においても、地方自治の精神に基づき課題に向き合っていこうと思います。

季節は初夏を迎え、中頓別においても観光イベントが多く行われております。今年の鍾乳洞芝桜まつりは、例年になく暖かで最高の日和の中実施され、ここ数年では一番の人手ではなかったかと感じております。焼肉を囲む人々の和やかな姿に、この町のおおらかさとイベントを心待ちに期待されていたことを感じました。

また、敏音知岳山開きでは、昨年に引き続き寿スキー少年団の団員と山頂を目指し、参加団員全員で山頂に立つことが出来ました。児童生徒の体力低下が社会問題化している現在にあっても、地域イベントを積極的に活用することは、外遊びの環境を提供する貴重な時間となることは言うまでもなく、団員相互が仲間意識を持ち、同じ目標に向かって協力や助け合うことを自然に身につける社会勉強の機会になったものと信じております。

この思い出が、将来生きる糧として成長に繋がることを感じた山開きとなりました。

議会広報編集特別委員会（長）